



▲出水期前に町内の防災対策について審議する防災会議委員

## 災害に強いまちを目指して 令和8年度町防災会議

5月27日（水）、町生涯学習センターで令和8年度町防災会議が開催されました。同会議は、地域防災計画の作成や実施の推進、関連機関の連携、非常事態における緊急対策の計画と実施を効率的に行うために設置される機関で、この日は町地域防災計画などの各種計画の見直しや関係機関の委員との有事の際の対応方法などの連絡調整を行いました。

## 官民連携で農業活性化へ 先端技術活用などで包括連携協定

6月5日（金）本町と中九州クボタ（大津町）、ランベックスジャパン（熊本市東区）、未来創造（熊本市西区）および本町と末松電子製作所（八代市）の包括連携協定式を行いました。

この協定は、地域農業の課題解決や持続可能な農業の推進を目指し、本町とそれぞれの企業が連携して取り組みを進めることを目的としています。

農業機械販売の中九州クボタ、木材販売のランベックスジャパン、ふるさと納税を活用した地域活性化を図る未来創造と本町がそれぞれの強みを活かし、スマート農業技術の活用や魚養殖の実証実験など計画。末松電子は、電気柵の関連資材の製造販売を主に行う企業。有害鳥獣の被害防止や近年進めるスマート農業の技術で本町の農業課題解決や農業振興を推進します。

町役場で行われた協定式で、甲斐町長は「皆さんの知恵やノウハウをお借りし、本町の基盤産業である農業を盛り上げ、活力ある町づくりを目指していきたい」と述べました。



▲町職員からごみの分別やリサイクルについて学ぶ龍野小児童たち

## くらしを支える水を学ぶ 龍野小児童が町水道管理センターで学習

5月29日（金）、町水道管理センターで龍野小4年生25人が社会科見学を行いました。児童たちは、水道水が家庭に届けられるまでの仕組みや安全な水を供給するための取り組みについて学習。また、ごみの分別やリサイクルなどについても学びました。「水はどこから来るのか」「集められたごみはどうなるのか」など質問し、水道や環境への理解を深めました。



▲包括連携協定を結んだ（写真上・右から）ランベックスジャパン、中九州クボタ、未来創造と末松電子製作所（写真下・右）

## 台湾バナナ寄附で結ぶ絆

町内の小・中学生1,000人へ

6月17日（水）台湾国際美食創新協会熊本分会から町内の小・中学生へ、台湾バナナが寄附されました。

同協会は、台湾の食文化を世界に広め、食を通じた国際交流の推進などに取り組む団体。同会熊本分会の錢妙玲会長は株式会社大三元の代表取締役で、昨年度企業版ふるさと納税制度を活用し本町へ寄附をいただいた企業です。この日は、本町子どもたちに台湾の食べ物を通じて、台湾のことを知ってもらい台日友好を深めることを目的に、同協会から1,000人分の台湾バナナを寄附いただきました。

町役場で行われた贈呈式では、錢会長が「この台湾バナナを味わってもらうことで、甲佐町の子どもたちに台湾を身近に感じてほしい」と甲斐町長にバナナを手渡し、甲斐町長が「とてもありがたい。これから台湾と本町の住民同士の交流も深めていきたい」と感謝を述べました。寄附いただいたバナナは、この日の町内の小・中学生の給食で提供され、子どもたちは甘い香りと味で台湾への関心を深めました。



▲台湾バナナを寄附いただいた台湾国際美食創新協会熊本分会の錢会長（写真上・中央左）とバナナを味わう甲佐小児童たち



▲米作りを行う田んぼで泥だらけになりながら、綱引きやかけっこ、そり遊びで楽しむ乙女小「まつやま塾」の子どもたち

## 田植え前の「どろんこ遊び」

乙女小「まつやま塾」が開講

6月4日（木）乙女小「まつやま塾」の開講式が行われました。同塾は、地域社会で子どもたちを育てることを目的に、町教育委員会が地域住民などの協力を得て、平成20年から放課後に開講。米や野菜作り、ソーメン流しなどの体験活動を計画し、同小を中心に近隣の田んぼや畑などで活動を行っています。

この日、乙女高齢者福祉センターで行われた開講式では、指導者の紹介や活動での注意点などの説明が行われました。

6月17日（水）には、毎年米作りを行っている「まつやまの田んぼ」で「どろんこ遊び」が行われました。参加した子どもたちは、地域の指導者たちが見守るなか、田植え前の準備のため水が張ってある田んぼで「どろんこ遊び」をスタート。始めは、足の指に入り込む泥の感触や冷たい水の感触に恐る恐る足を踏み入れていた子どもたちでしたが、慣れてくるとかけっこや綱引きなどでどろんこ遊びを満喫。今の時期ならではの貴重な体験を楽しみました。